

第104回 **全国高校野球**
青森大会
最終日

仲間の思い一打席に注ぐ
 ○…八学光星の高梨は今大会、開幕前にはかき離脱した正一塁手に代わり、急きよメンバ―入りした。出場は代打のみだが、「離脱してあいつの分まで絶対打ってやろう」と、一打席に手を注ぐ。
 この日は七回、1死から送り出され「単打でいいから確実に」と、狙い球のスライターを



7回表、八学光星1死、代打で登場した高梨が右越えに安打を放つ



2回表、八学光星1死三塁、深野が左越えに適時二塁打を放ち2-0

昨夏の悔しさはねに
 ○…今大会、右翼手として全試合に先発出場した八学光星の深野、2年生ながら中堅手としてスタメン入りした昨夏、聖愛との準々決勝で5点を先行しながら逆転負けを喫した苦い経験をばねに「勝ち切れなかつたのが悔しかった」と技術を磨いてきた。
 この日は二、四回、いずれも得点に絡む二塁打を放った。「甘い球は引って張って長打にしよう」と、狙いの球を確実に仕留めた。努力が表り「優勝はうれしい。甲子園でも一番を取りたい」と前を見据えた。



表彰式後、チームメイトらとの記念撮影で笑顔を見せる八学光星ナイン